

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和七年二月度 入賞句一覧 投句数 七百三十七句



特選

名和 永山 選

方言で語る民話や炭を継ぐ

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

地方に語り継がれている民話とは、伝説や童話、世間話などを含め民間に口承されてきた説話のことを言います。そうした様々な民話からは、日本の歴史的背景や世情、教訓などを読み取ることが出来ます。それぞれの地方で語られているのですから「方言」もあるでしょう。囲炉裏の周りに集まり、静かに聞いているその様子がよくわかります。口伝えで今でも残っている民話と、座五（下五）の「炭を継ぐ」が掛けられているのも面白いですね。

大寒や水都の水のなほ甘し

大垣市 柴田 えり子

今年の大寒は一月二十日でした。寒さが一段と厳しかったこの冬ですが、「水都の水が甘かった」と。水の都大垣の湧き水は有名ですが、実際には水に味はありません。湧き水が美味しいのは、水温が安定していることに加えて、水中にたくさんのお二酸化炭素が含まれていることによると考えられています。確かに水道水より美味しいのです。上五の季語と切れ字の「や」の強調が生きています。「なほ甘し」の、安定した着地が良いですね。

過ぎしことほどよく忘れ年の酒

大垣市 吉田 てるみ

季語「年の酒」は、「年酒」といつて、新春に年始回りの賀客にすすめる酒です。新しい年を迎えて、昨年の諸々の出来事を「ほどよく忘れ」新しい年を、また心新たに迎えようとする作者が伺えます。蛇足になりますが、新しい事を覚えたり記憶したりするためには、記憶するところを確保するために「ほどよく忘れること」は大切な事なのです。「ほどよく」の措辞が良いですね。

秀逸

けんか独楽頭すり寄る童かな

大垣市 安藤 弘子

紙漉女手業を誇る半生よ

各務原市 桑原 緑

七草や膳それぞれの塩加減

不破郡垂井町 川瀬 慶泉

持てなしの冬日あまねし豊廊

静岡県浜松市 松浦 ゆり

蒼天に傷ひとつなし玉の春

大垣市 浅野 翔泉

一直線に駆け出す球児風光る

養老郡養老町 佐藤 咲楽

句帳だけあれば枯野にある居場所

東京都世田谷区 関戸 信治

冬虹の片脚辺り垂井宿

不破郡垂井町 北村 廣美

初晴れの伊吹に御座す紫雲かな

安八郡安八町 野原 はなこ

これ以上軽くはなれず枯芙蓉

愛媛県松山市 平野 ヒサエ

入選

初湯にもインバウンドの家族連れ

大垣市

平野 順一

己が身を刃鋭き冬の月

岐阜市

船渡 恵

山城へ上るゴンドラ初茜

岐阜市

寺島 鏖太

食パンの耳ひとかけら寒雀

岐阜市

伊藤 をさむ

鳥一羽二羽三羽来て春の庭

大垣市

酒井 和美

手作りの凧の巳の字や年女

大垣市

米山 春江

手仕事の労をねぎらひ胼薬

岐阜市

花川 和久

小松菜の間引き迷える節樽手

大垣市

岩田 千鶴

くれなるに染りし梅の蕾かな

本巢市

山田 香山

初場所や投げて阿修羅の貌残す

本巢市

小泉 裕子

はじめての街のひと駅歩く春

大垣市

遠藤 加容子

追憶のほろ苦き事露の臺

広島県福山市

栗本 リカ

老二人いたわり合うて七日粥

本巢市

土川 楽人

二頭舞ふ畑に逢瀬の黄蝶かな

本巢郡北方町

伴田 至誠

たつぷりの空の青さや大根干

東京都足立区

木幡 忠文

選者吟

首傾しげ赤子は春の日をさがす

永 山



一般の部